

令和6年度 事業計画書

長寿科学研究等支援事業

長寿科学研究者支援事業

()は令和5年度当初予算

(1)長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

86,800,000円

(179,897,000円)

令和4年度採択プロジェクト

貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～

地域の中で役割や居場所を探す高齢者と、仕事やボランティア、生涯学習など様々な地域活動また、サポートを求める住民の声を有機的につなぐ情報プラットフォームとしてGBER(ジーバー)を研究開発し、地域での社会実装に取り組んでいます。本プロジェクトでは、GBERの機能を拡充し、各地域から抽出されたニーズを総合して、高齢者の活躍・貢献領域を拡大することを目指しています。

●プロジェクト代表者: 檜山 敦(一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科・教授)

●採択分野・期間: 実装研究(3年間) ●助成額: 30,000,000円/90,000,000円

最終年度

令和5年度採択プロジェクト

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と住民の社会参加向上と

スティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

産官学民の連携により、認知症などで社会生活機能に低下のある人々や地域住民が自然に参加したくなる施設を作り出すことで、認知症への偏見を減らし、誰もが幸福で健康に過ごせる社会を目指しています。

●プロジェクト代表者: 斎藤 民(国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部・部長)

●採択分野: 探索研究(2年間) ●助成額: 10,000,000円/20,000,000円

最終年度

令和6年度採択プロジェクト

採択無

令和7年度採択プロジェクト

令和6年4月から公募、書面審査、1次2次審査を経て、11月末に最終審査予定

長寿社会実現研究支援 審査評価委員会

| | | |
|------|--------|-----------------------------|
| 委員長 | 駒村 康平 | 慶應義塾大学経済学部 教授 |
| 副委員長 | 飯島 勝矢 | 東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 |
| 委員 | 秋下 雅弘 | 東京大学大学院医学系研究科 教授 |
| 委員 | 阿久津 靖子 | 一般社団法人日本次世代型先進高齢社会研究機構 代表理事 |
| 委員 | 翁 百合 | 株式会社日本総合研究所 理事長 |
| 委員 | 鎌田 実 | 一般財団法人日本自動車研究所 代表理事 |
| 委員 | 近藤 克則 | 千葉大学予防医学センター 教授 |
| 委員 | 長谷川 友紀 | 東邦大学医学部 教授 |

高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成採択プロジェクト

Google寄附事業 39,737,000円 (93,897,000円)

令和6年12月 報告会開催予定 於:名古屋市 (国際シンポジウム内プログラム)

令和7年1月~3月 報告会・発表会の開催

採択プロジェクト

最終年 (令和6年12月)

① 高齢者のスマートフォン利用促進を介したアクティブコミュニティの形成

高齢者に対してスマートフォン利用促進のための教室を地域ボランティア(デジタルヘルス推進員)を介して開催し、アプリを活用して高齢者の活動性向上を支援するコミュニティを形成し、健康寿命延伸に対する効果を検討することを目的とするものです。

●プロジェクト代表者:島田 裕之

(国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター・センター長)

●研究期間:2年間 ●助成額:49,998,000円 支出済

② "学び合い"プログラムを用いたデジタルスキルラーニング・エコシステムの開発と実装

~多世代型互助によるスマート・インクルージョンの実現~

多くの高齢者が社会とのつながりを感じつつ、楽しくデジタルリテラシーを向上するために、高齢者のニーズを調査し、修得プロセスが生きがいの創出・ウェルビーイングの向上に寄与するエコシステムを開発します。この方策の持続可能性を実現し実装します。

●プロジェクト代表者:瀧 靖之

(東北大学 スマート・エイジング学際重点研究センター・センター長)

●研究期間:2年間 ●助成額:50,000,000円 支出済

③「ジョブボラ」の創出とデジタルマッチングの実装に向けた研究:誰もが活躍できる社会を目指して

高齢者と仕事・ボランティア(ジョブボラ)のマッチングを高めるため、高齢者にとって使いやすいアプリ開発に加え、多種多様なジョブボラの機会を提供し、ジョブボラ機会の獲得を支援する仕組みを構築します。

●プロジェクト代表者:村山 洋史

(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジングチーム・研究副部長)

●研究期間:2年間 ●助成額:50,000,000円 支出済

高齢社会課題解決研究助成審査評価委員会

| | | |
|------|--------|----------------------|
| 委員長 | 荒井 秀典 | 国立長寿医療研究センター 理事長 |
| 副委員長 | 葛谷 雅文 | 名鉄病院 病院長 |
| 委員 | 大高 洋平 | 藤田医科大学医学部 主任教授 |
| 委員 | 篠崎 尚史 | 国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐 |
| 委員 | 鈴木 みずえ | 浜松医科大学臨床看護学講座 教授 |

(2) 長寿科学関連国際学会派遣事業

2,792,000円 (0円)

長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、優れた研究成果をあげた若手研究者又は有望な研究を行う若手研究者に、海外で開催される関連する学会に参加する費用を助成します。

国際学会派遣事業審査委員会を設置し、選考(夏頃)予定 (1人20万円 10人程度)

(3) 若手研究者表彰事業

530,000円 (0円)

長寿科学研究に携わる若手研究者の研究活動を幅広く支援することにより若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を選考のうえ、「長寿科学賞」を贈呈するとともに、副賞の交付をおこないます。(令和7年度事業)

日本老年学会に依頼し、各学会から選考された若手研究者に表彰状、表彰盾、副賞研究費贈呈
令和6年度中に日本老年学会に依頼する予定

(1)業績集の発行事業

令和6年度の事業は休止

(2)機関誌の発行事業

15,966,000円 (16,706,000円)

WEB版機関誌「Aging&Health(エイジングアンドヘルス)」を財団ホームページと健康長寿ネット
で年4回(春・夏・秋・冬)発信します。109号～112号発行予定

主な内容

- 長寿に関わる研究について専門家が分かりやすく解説
- ご高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー
- 各地域で高齢者に関わる取り組みを紹介
- 長寿科学に関する最新研究情報
- エッセイ



109号(春) テーマ:「認知症の治療・予防・早期発見」

110号(夏) テーマ:「暮らすだけで健康になれるまちづくり」

111号(秋) テーマ:「高齢者の食事と栄養」

112号(冬) テーマ:「高齢者の生活を支える」

主なコンテンツ

- 健康長寿とは:自分でできる健康長寿のための情報について
- 高齢者の病気:高齢者に多い病気・症状について
- 高齢者を支える制度とサービス:介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介
- インタビュー・対談・特集・研究情報:機関誌で取り上げた記事を紹介
- エッセイ:機関誌で取り上げたエッセイに加え、健康長寿ネットだけの井口昭久先生と宮子あずさ先生の連載エッセイを掲載
- メールマガジンの発行（年12回程度）



広報委員会の開催

機関誌、健康長寿ネット等財団の広報について審議をするために広報委員会を設置。
将来的には当財団の公益目的事業2【情報提供事業】に関し必要な事項を定める委員会とする。

令和6年度審議内容

- ・長寿科学振興財団広報について
- ・機関誌「Aging&Health」執筆「テーマ・候補者」選定等 113号～116号

| | | |
|------|--------|-----------------------|
| 委員長 | 柳澤 信夫 | 全日本労働福祉協会 会長 |
| 副委員長 | 鳥羽 研二 | 東京都健康長寿医療研究センター 理事長 |
| 委員 | 飯島 勝矢 | 東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 |
| 委員 | 飯野 奈津子 | 医療福祉ジャーナリスト |
| 委員 | 井藤 英喜 | 東京都健康長寿医療研究センター 名誉理事長 |
| 委員 | 櫻井 孝 | 国立長寿医療研究センター 研究所長 |
| 委員 | 佐藤 眞一 | 大阪大学 名誉教授 |

(4)長寿たすけ愛講演会開催事業

令和6年度事業は休止

(5) 長寿科学研究普及事業

4,650,000円

(4,650,000円)

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め長寿科学研究に関する国際シンポジウムを開催。

- 第19回国立長寿医療研究センター国際シンポジウム

日程:令和6年12月 場所:名古屋市開催 予定